

○委員長(齊藤 明男) ただいまから、総務常任委員会を開会いたします。

議題の確認ですが、配付のとおり進めたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(齊藤 明男) 異議がありませんので、そのように進めさせていただきます。

---

#### 1 付託事件審査

○委員長(齊藤 明男) それでは、1の付託事件審査ですが、提出者の説明については省略したいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(齊藤 明男) 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

それでは、議案第15号平成25年度函館市一般会計補正予算を議題といたします。

御質疑ありませんか。浜野委員。

○浜野 幸子委員 せっかく委員会付託になったので、多少ちょっと初歩的な部分を含めてお聞きしたいと思います。

今回のアリーナ、多分これ、予定価格は事前公表であったと思いますが、いかがでしょうか。

○教育委員会生涯学習部長(政田 郁夫) 事前公表していたものでございます。

○浜野 幸子委員 わかりました。じゃあ、もう一つ。簡単ですが、入札の原理なんですが、この予定価格、今回の、多い場合は失格だと通常なっていますが、今回は無効となったということで、この入札の規定が、いわゆる今回の入札の時に提示して、こういう結果になったのかどうか教えてください。

○財務部調度課長(神 和幸) 予定価格を超える入札につきましては、今回の予定価格、事前公表ということで、無効になるのがわかる状態にはなっているんですけども、うちのほうは入札手続を定めた入札心得などによりまして、例えば最低制限価格を下回る入札あるいは入札参加資格のない入札、そういったものと同様に、予定価格を上回る入札につきましても無効としているところでございます。

以上でございます。

○浜野 幸子委員 ちょっと、もう1回。ちょっと、はっきり、ちょっと最後のほう理解できないので、もう一度言ってください。

○財務部調度課長(神 和幸) 無効となる入札につきましては、入札手続を定めました入札心得などにより規定しているところでございます。

以上でございます。

○浜野 幸子委員 と言いますと、今回ののは通常のやり方とは違ったやり方ということですか。一般的なやり方とは違うということですか。

○財務部調度課長(神 和幸) 入札に当たりましては、全て入札心得を遵守した形での手続になってお

りますので、通常と同じく、こういった入札につきましては無効としているところでございます。

○**浜野 幸子委員** それでは、今回、2者のJVだったんですが、そういう心得をわかりつつ、こういう主張といいますか、こういう形で投函したというふうに理解していいんですね。わかりました。

それと、今回、補正で5億2,700万円、これ補正されましたが、これは、意図がちょっと、どういう理由か教えてください。

○**教育委員会生涯学習部長(政田 郁夫)** 今回の増額補正の趣旨ということでの質問と受けとめました。今回の増額の内容につきましては、土工事、型枠工事、鉄骨工事について、資材及び労務費などの実勢価格を見積もった見積もりをとりました業者に確認するなど、精査して、新たな設計額5億2,700万円増というふうにしたところでございます。

以上でございます。

○**浜野 幸子委員** ちょっとこれ、素人考えかもしれませんが、大分、企業体で差の多いほうを今回の補正予算に組んだ。これは、今のいわゆる経費というか設計費、増えるから額になったということで、きょうの提案の際も、価格が高騰して、人件費もさらに上昇する可能性があるから補正を組むというお話でしたが、道のほうではもう4月ぐらいから、この構造関係の金額は上昇するというのを各関係者に、もう前から報告済みであったという話も聞いております。そうであれば、この今回の入札の際に、もう少しこの予定価格、前には、いわゆる耐震性があるから増額してほしい。で、今回は今度こういう意味で高騰するから増額。何か一回一回、もうこれでできるんだという状況の中での、こういう恥ずかしい入札の結果が出たわけなんです、これはやはり発注する側の教育委員会の考えが少し甘かったんではないかなと私は思います。これは、やはり教育長、あなたが一番の責任者であると思いますが、これについて意見をちょっと、考えを教えてください。

○**教育長(山本 真也)** この度、函館アリーナの入札に際して、一度の不調があって、さらにもう一度という形で入札を行ったわけですが、その結果、それが不調に終わると。そして、今お話がありましたけれども、その差というか、2回目の札入れで、実際、業者側の見立てというのがつかめているわけですが、実際に人件費あるいは資材も高騰があったということで、再度、その土工事、型枠工事、そして鉄骨工事について精査をした結果、この補正額というのは今の実勢価格を見ての補正でありますけれども、そういった差が見られるということで、補正をお願いするところであります。この金額が、2度目の入札における1JVの金額と類似するというのは偶然でありまして、あくまで資材及び労務費の上昇における、各3工種ありますけれども、その3工種の積算、改めての積算における結果ということでございますので、実際、御指摘のように、そういった上昇というのが見込めなかったのかということに関しては、ここまでのというか、一種、ちょっと普通ではない状態というのが全国あるいは道内でも見られるわけですが、そういった認識が不足していた部分については申しわけなく思っているところであります。

以上でございます。

○**浜野 幸子委員** はい、ありがとうございます。最後なんです、今回、大変急いで、これから今後の建設に関して、請負契約の締結まで、日にちが本当に短期、日数が短いわけですね。今回、2者の人を見積もった。また今回の追加補正することによって、他の業者も多分見積もりをして出すことになる

のか、その辺はよくわかりませんが、余りにも日数が短時間なので、多分、他の設計を見積もるほうは大変厳しいという意見が業者間から聞こえております。これで正確な工事着手までの手順が通れるかどうか、どうしてもこれでやらざるを得ないものと思いますけど、その辺はどう思いますか。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 補正しなければならない理由等についてのお尋ねだと思ってお答えいたします。今回、アリーナのオープン時期に合わせ、スポーツ関係団体等から既に予約の申し込みがある。また、今後も資材高騰が予測される。さらには消費税。仮に消費税増税となった場合でも、9月中の契約でありますと、現行の消費税額になることといったことを考えますと、何とか9月中に再公告して、入札契約を行いたいという考え方から、この度、御提案させていただいたところでございます。

以上でございます。

○**浜野 幸子委員** 業者間では、本当に正確な、利益も含め、そして建設を着手するには、余りにもこの見積もりをする日数が短いという意見がたくさんあるということを申し述べて、私のお聞きしたいことを終わります。

以上で終わります。

○**委員長（斉藤 明男）** 阿部委員。

○**阿部 善一委員** 今さらデザインのことを言っても仕方ないんですけども、今までせいぜい言ってきましたのでね。今も議論がありましたけれども、その2回目の入札が不調に終わって、何時間ももしないうちに5億2,700万円の上積みをする。この素早さについて、非常に私は奇異な感じを受けているんですね。で、初めから函館市がそのことを、これだけ不足しているということであれば、工事額を変えるのが正常なやり方ではないんだろうかと。皆さん当然、入札に参加するJV2者から前段で見積もりをとっているわけですし、そうすると工事額より相当低いということになってくるんでしょ、これ、当然。わかってた話なんでしょ。それを何故、入札から何時間ももしないうちに、これだけ上げると、上積みすると、その辺がよく理解できないんですけども、そこについて、わかるように説明していただきたいなど。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 一連の今回の流れについての御質問だと。6月議会におきまして、本アリーナの補正予算を議決、補正予算を御承認いただいた後、7月18日に第1回目の入札公告を行いました。入札におきましては、建設主体工事、1企業体のみのお応募にとどまりまして、さらには、当該企業体が入札価格の精査に時間を要するとの理由で、入札辞退の申し込みがありまして、8月6日に予定していた入札を中止したところでございます。その際に、その後というか、他の企業の参加を促し、競争性を持たせるため、予定価格は変更せずに、入札参加条件を同企業体に限らない、まあ、そうすることによって競争性を待たせることで、何とかその金額で収まるだろうと、そういう考え方のもとで、8月8日に第2回目の入札公告を行いましたけれども、8月21日の参加申請締め切り時点で、2つの企業体から参加意思表示を確認したものの、9月3日の入札におきましては、予定価格を上回った札入れがなされたというところでございます。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** そうじゃない。質問が違う。経過じゃない。

経過は十分承知なので、お聞きしたのは、2回目の入札が不調に終わったと。終わって何時間もしないうちに、すぐ具体的な金額を上積みをするということを発表したということに奇異を感じていると。あらかじめ、これ、当初計画したより少ないのであれば、当然公示のやり直しだとか、あるいは入札日のやり直しだとか、そしてまた先ほど出たように業者間に見積もりの期間を確保するとか、そういう行為というのは当然必要だったんでないですかって言っているの。

○**財務部長（山田 潤一）** 阿部委員のほうから、入札後直ちに時間を置かない状況の中で、金額も含めてという、逆に言えば、余りにもそういう段取りがよすぎたのではないかというようなお話かと思えますけれども、実は私ども財務部といたしましても、全国的なこういう入札の不調、あるいは資材の高騰等というお話、新聞報道等、あるいはさまざまな情報の中で得ておりましたので、先ほど生涯学習部長のほうからも御答弁ありましたけれども、後ろのほうの、要は利用状況が入っている、さらには資材の高騰、あるいは消費税の問題等々あったものですから、私どもといたしましては、万が一のことを想定いたしまして、そういう金額を計算していたという状況でございます。従いまして、入札あった当日まで、当初申し上げましたとおり、今回の2回目の入札で、競争力を発揮させることにより、何とか予定価格の中におさまるだろうというようなことの期待を持ちながら進めておりましたけれども、そういう全国の流れの中で、万が一を考えた状況の中で、このような対応をさせていただいたということでございます。

○**阿部 善一委員** 淡い期待がもろくも崩れたと。そういうことですよ、わかりやすく言うと。しかし、前回、こういうような議論というのは海洋センターが入札の不調になったときに、やっぱり同じような議論をした。そのときにどういう答弁されたかという、人件費の値上がりが続いてます、資材の値上がりが続いております、等々で補正を組まなければならなくなったということで、3億8,000万円くらいだったですかね、1回目の補正、アリーナは。そういう、あって、こういう世の中の趨勢であるから、十分そのことには注意を払いながら、これからも注意していきたいと、こういう答弁があったわけですよ。当然それは議事録にも確認されてます。そういうことであるなら、また先ほどから出てるように、全国でこういったものの入札が非常に不調に終わっていると。公示価格と実勢価格があわなくなってきたという、そういう諸般の状況があれば、やっぱり見方が甘かったし、やり方としてどうだったのかと、私は非常にそこの行政の甘さもあつたらうし、それと、世の中のそういった動きを実勢的に予算の中に、ある意味これは行政の不作為ではないかと思ってるんですよ。その点についてはどんなふうに思ってる。教育長

○**教育長（山本 真也）** 国際水産・海洋研究センターについては、ちょっと経緯を承知していないわけですが、実際類似したことも函館市内においても起きてきたと。そのたびにということでありましょうけれど、実際私ども教育委員会としてというか、今回の函館アリーナの整備に当たって、この入札がここまでこじれるとはちょっと予測してなかったのは確かであります。いろんな全国の事例も聞きましたが、そのたびに私どももそれを注意しながらというか、そういった状況も頭に入れながら進めてきたつもりではあるんですけれども、ここまでの状態というのを予測し得なかったという意味では、先ほど申し上げましたけれども、それはおわびを申し上げたいというふうに思います。ただ、実際にこの工事を進めるにはタイムリミットもございますし、そのためにあらかじめの予防線として現在の価格を

積算し直してみたりという作業を積み重ねてきておりましたので、今回、たびたびのというか、たびたびのではないですね、6月の補正予算から間もない期間ではありますけれども、改めて補正をお願いする次第でありますので、ぜひ御理解をいただきたいというふうに思います。

○阿部 善一委員 前回の海洋センターの入札不調のときには、ここにいなかったと。しかし、そのときはたしか都市建部長の答弁だというふうには思いますけれども、それはもう全体で確認された話なんですよ。それは行政全体として、都市建設部長個人の見解ではなくて、行政全体として我々議会に対して公言をしたことなんです。だから、そのことが共有されていないということで済まして、そういうことになると思う。これは私は強く反省を求める、しなきゃならない。それと、もう一つ、先ほども議論出ましたけれども、この皆さんからいただいた資料で、入札に参加したスーパーゼネコン、あるいはゼネコンでしょうけれども、これ、この低いほうを、札を入れたところが、普通、これだけでできるということで、当然資材の高騰だとか、資材だとか、高騰分だとか、あるいは人件費だとかというのは、それぞれ大体決まっている話であって、なぜこの高いところがこの補正額になるのかと。低いところが補正額でなくて、なぜ高いところが補正額になるのかということです。お互いに、どのゼネコンだって、その仕入れ、どういうルートあるかわかりませんが、安いほうは安いほうと仕入れるルートがあるという価格のもとに積算しただけでしょ。あえて高いほうを選んだわけだから、その理由がわからない。

○教育長（山本 真也） 私が答えるのがいいのかわかりませんが、先ほど申し上げましたけれども、この額というのは、3種の土工、型枠、そして鉄骨という3種の工事費の積算を改めてし直したということでありまして、応札をされた2ジョイントの価格をもとに行っているものではありません。ですから、これは再度公告をして、再度入札に付すわけですので、予定価格そのものを変更しようということになりますから、1者下の、さらに下の数字があるじゃないかといった、これは、その入札行為そのものは無効になっておりますので、改めての入札というか、公告をし、入札に付すということになるものでございます。

○阿部 善一委員 そんな手続論を聞いてるのではないんだよ。この工事は、Aの会社がやろうがBの会社がやろうが、必要な資材を買って、人件費をかけて、これでもできるということでしょう。それで総体の中で計算して出てきた話でしょう、これ。だから、そうだとすれば、これに限定してるんだから、工事を、その部分を。そうしたら、Aの会社はこれだけかかります、しかしBの会社はこれだけでできると。そうしたら、低いほうにその補正をするの当たり前じゃないのかい。違うの。

○教育長（山本 真也） 随意契約とかではなくて、あくまでも公告をし、入札に付すということでありまして、これから各参加する、ジョイントか単体の企業かわかりませんが、札を入れられる方が、競争が始まるわけですので、その予定価格を変更しようとする、予定価格を変更しようとするための補正予算だと。競争でさらに低い札が入ることはもちろんあり得るし、そういうことは十分に考えられるものというふうに思います。

○阿部 善一委員 質問と答えが違うんだよ。全然違う。そういう観点じゃないんだよ。その5億2,700万円の上澄み、補正予算がありますよね。で、片方のほうは同じ設計で、今のこの設計を出したと、これでもできますよってことで、3億何ぼでできるということなんだよ。できるということは、資材だってそれだけ適正值段で買って、あるいは人件費も払ってでもできますよということの積算をしたからこ

ういう価格が出てきたんでしょ、恐らく。それを、なぜ高いほうになるんですかということですよ。単なるこれは数字の差でないでしょ。この工事が、何々でもってこれだけ高くなるんだってことを言うてるんだから、限定してるんだから、工事を。全体的な話じゃなくて、土壌改良だとか、あるいは鉄骨を入れるとかということで、この工事を限定してる話でしょ、これってというのは。だから言ってるんだよ。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 教育長のお答えしたとおりだと思ってるんですけど、改めて積算し直した、その結果でもって補正予算をお願いしているということなんですけれども。

○**阿部 善一委員** 業者だって積算をして、それでもできますということでしょうっていうの。そういうことなんです。委員長、話が見えないから、それを積算した都市建設部長をちょっとここに呼んでもらって、このことについて説明していただきたいなと思うんですが。

○**委員長（斉藤 明男）** 今、阿部委員のほうから、都市建設部に出席を要請したいと、こういうような発言でございますけども、委員の皆さん、御異議ありますでしょうか。

○**小野沢 猛史委員** 私は特に異論は申し上げませんが、私は教育長の答弁でよく納得、理解します。もう少し丁寧に説明してもらったらどうですか。

○**能登谷 公委員** 恐らく、今、阿部委員の部分の中で、例えば、これからまたいろいろの人が出てきて、意見あると思うんですけども、その意見が、例えば都市建に当たる部分があったら、都市建で集約して、そのときに集中的に都市建で、要は行ったり入ったりするよりも、そのほうがいいんでないかと思うんですけども。

○**委員長（斉藤 明男）** じゃあ、必要に応じて都市建設部を呼ぶと。それは各委員の質問の内容を集約して、ある程度出たり入ったりということをする、効率的には悪いんで、最後にその意見、集約して質問していただければと、こう思いますので、御協力のほう、よろしくお願ひしたいと思います。

阿部委員、では、一時保留して、次に進んでもらいたいと思います。阿部委員。

○**阿部 善一委員** せっかく能登谷委員から適切なサジェスチョンをいただきましたので、そのように。そのことについては答弁は保留ということで、進めたいと思います

それから、いろいろとわからないことだらけなんだけど、この、そうすると、その1回目の不調のときに、市内のいわゆるAクラスって、たしか4者JVとか言ってたと思うんだけど、あとBクラスとかと言ってたんだけど、そしてそれが不調に終わったから、今度は全部なしよということになって、誰でもいいよと、1者でもいいよということになったわけですね。そうすると、その理由として技術者がいないという大きな理由であったと。それから、ちまたによく言われてるように、やっても赤字だということだったんだろうけども、そうすると、今度最終的には、先ほど3億8,000万円、あるいは今回の合わせて8億円、9億円近くの補正、全体としてなるわけですけども、改めて、そうした場合には、市内のAのクラス、当初考えていた、の入札のチャンスというのは、入札するチャンスというのは出てくるんだろうか。さっき言ったように、積算の時間がないという、極めて短時間なために積算期間がないということであれば、前と同じように、ずっと前から言われてるように、こういう大きな工事に対して、市内の業者がこれに参加できないという異常事態が生まれるということについては、非常にやはり問題があると私は思ってます。そういう意味では、市内の業者もこれに入札参加できるという体制づくりというのは、皆さんどんなふうにお考えなのか、お聞きしておきたいと思います。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 地元のAクラスなりに対する配慮はしないのかという趣旨での御質問でございます。一度目の入札の際に確認しましたところ、現在の地元のAクラス業者にありましては、技術者の配置ができないと回答された業者が多くございまして、そういうような状況、19社中14社が技術者の配置ができないと回答したということでございますので、新たな入札につきましても前回と同様に実施したいというふうに考えております。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** そうすると、これは、この中に書いてませんけれども、今回不調に終わった中で、この大林JV、あるいは佐藤工業JVですか、この中には市内のいわゆるAとかBとかという、あるいはCだとかというのは入ってる、名前は結構ですけれども、入ってるのか入ってないかだけ、ちょっと教えていただけますか。

○**財務部調度課長（神 和幸）** 今回、2JVにつきましては、ゼネコン以外、どちらも地元のAランク業者が構成員として入っているところでございます。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** それは、例えば大林JVだったら何社、それから佐藤工業だったら何社というの、社名は結構ですから、確認します。

○**財務部調度課長（神 和幸）** 大林JVにつきましては、構成員、大林組さん除きまして3社、こちらは全て地元のAランク業者でございます。佐藤工業JVにつきましては、ゼネコン1社と地元Aランク1社の3社JVでございます。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** 課長、もう一回ちょっといいですか。

○**財務部調度課長（神 和幸）** 大林組さんが代表者のJVにつきましては、大林組さん、プラス地元Aランク業者3社の4社JVでございます。佐藤工業JVにつきましては、佐藤工業さん以外にゼネコンがさらに1社、地元Aランク業者1社の、合わせて3社JVでございます。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** そうすると、その、当初、人がいないとか、だから、ということではなくなった、少しは開放されたんだね、少しは。いずれにしても、これだけ大きな工事の中に、非常にずっと、金澤委員も議会で、できるだけ地元業者をメインに組んだらどうだということを言って来たわけですが、結果的にこういう、次に応募したときにどんな形になるのかわかりませんが、状況から考えれば、そんなに増える要素はないのかなど。さっき言ったように、積算の期間が非常に短すぎるということで、余裕がないということだろうと思うんだけどね。これそうすると、確認します。次の入札も、前回、今回終わったその入札の要件、同じ方式でやるということを確認、たしか言ったかと思うんだけど、もう一回ちょっと確認します。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 前回と同様の要件で実施したいというふうに考えております。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** 先ほど都市建設部長に1つありましたので、それを保留して、私のほうはこれで終わりたいと思います。

○委員長（齊藤 明男） 茂木委員

○茂木 修委員 何点かちょっと確認をさせてください。それで、前回、不調に終わりました、入札はしてないんですけども、1JV、そこから実勢価格との差があるんだよという指摘は、これ、あったんですか。これは都市建に聞けということですから。

先ほど来、ちょっと話題になっていることで、ちょっと私、素人なんで、答えたかもしれないですけど、もう一回確認したいんですけど、要するに2回目が不調になって、その後に5億2,700万円という積算の数字を出してきましたよね。この5億2,700万円というのは、その入札される前にもう既に調査をして、市としては把握していたということですか。

○財務部長（山田 潤一） 都市建部長が後ほど、先ほど阿部委員のお話も答えになるのかもしれませんが、たまたま5億2,700万円という数字でございますが、私ども、先ほども言いましたように、最悪の事態を想定しながら積算を見直したという経緯がございます、そういう中で、事前に分かっていたわけではなくて、入札の開札につきましては、3日に行いましたけども、その10時少し前に時間指定で札が郵便で届くことになっておりますので、この差というのは開札するまで実はわからないという仕組みになっております。従いまして、3日に開札した結果が、たまたま偶然、この数字に合ったんです。

○茂木 修委員 私はそれ、合ってるんじゃないのという指摘をしているのではなくて、それは違うというのは先ほど何回も聞いてわかってるんですけども、市が独自に積算をした5億2,700万円という金額は、いつ見積もりをとって、いつ市としては把握してたんですかっていう話。それは入札前ですかと。10時過ぎてから1時間くらいでばたばたとやったのか。

○財務部長（山田 潤一） その件につきましては、当然、見積もり、設計をするのに時間も要しますので、先ほど言いましたように、最悪の事態を想定すると、当然入札の日からであれば間に合わないというようなこともありましたので、見積もり業者につきましては、前の週から若干、精査をさせていただいたということになります。

以上でございます。

○茂木 修委員 ということは、その辺りから、これは不調になるだろうという、そういう予測は立ったというふうに思っているんでしょうかね。

○財務部長（山田 潤一） 先ほど阿部委員の質問にお答えしましたけども、不調になるとかということではなくて、最悪の場合を、あくまでも全国的な流れ、あるいは北海道の札医大の入札が不調になったとか、他の事例なんかも踏まえまして、最悪の事態を想定して、内々に積算をしたという形でございます。従いまして、2回目の入札のときには、私どもといたしましても、何とかこの形で応札があるものということで期待をしていたということは変わりありませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

○茂木 修委員 だからね、その判断がやっぱり、ちょっと見通しが甘かったのかなというふうには思いますね。そこはちょっと指摘をさせていただきたいというふうに思います。

それで、全然話が違いますけれども、そもそも私はあのプロポーザルが終わったときに、素人だからわからないですけども、これ63億円でしたか、当初、63億円で本当にできるんだろうかと、非常に当時から不安でしたよね。その問題もあるんでしょうけども。今さらそこに立ち帰って議論するつもりはな

いんですけれども。前回、労務単価の件ですとか、それから今回は資材の高騰で補正して、当初の63億円から総額幾らになって、市の負担というのは、これは合併特例債ですけれども、どのくらいふえたんでしょうかね。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 当初、基本計画、基本設計の時点で63億円ということでお示ししてました。で、前回の補正、それから今回の補正を含めまして、総事業費とすれば75億円を超える見通しということでございます。それから、実質的な一般財源の持ち出し、市の持ち出しが幾らになるのか、どの程度ふえるのかという御質問でございまして、5億2,700万円、増額補正いたしますと、起債対象額、地方債の対象額が約5億円ほどとなりまして、そのうちの市の負担額が1億5,000万円となるんですけれども、それ以外に一般財源というんですか、市の持ち出し分も合わせますと、実質的な市の負担額とすれば1億7,650万円ほどになるのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○**茂木 修委員** 1億7,000万円、こんなもんでしたっけ。最初あれ、今回だけの話でなく、総額ですよ。それから、最初95%ですか、あれは、5%はそのもの、市の負担額ですよ、最初から。そういうのも全部入れて、幾らになるのか。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 6月補正時と今回ということで比べるさせていただきますけれども、6月補正のときには、国費、国の補助金、それから道の補助金も入ることになったと。当初の見込みではなかったんですけれども、そういった財源の努力もさせていただいたという御答弁をさせていただきました。そのときには、実質的な市の負担額は21億円程度だったものが、今回の補正では、22億8,500万円と。それで、ふえる金額が1億7,650万円ということでございます。

○**茂木 修委員** それともう一点、これも都市建設部か。要するに積算の根拠になっている道単、これを使用しなきゃいけなかったという話があったんですけれども、でも、今回はこれを使用しないというんですね。それは使用するということですか。道単を使ったから、こういう実勢価格との差が出てきたということですか。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 私の拙い土木の経験から申し上げますと、基本的に市の発注工事、公共工事につきましては、北海道単価をもとに積算をしているものでございます。ただ、北海道単価にない単価もいろいろございます。そういったものについては、見積もり単価ということで、数社から、今回でいえば都市建設部のほうで数社から見積もりをとって、具体的には3社から見積もりをとって、そして、そのうちの一番安い金額を採用していると。ですから、単価とすれば、道単にあるものについては、北海道の単価を採用する。北海道の単価にないものは、資材屋さんとか、そういった業者さんからの見積もり単価を採用するという仕組みになっております。

○**茂木 修委員** いや、私、素人でわかんないですけれども、そうじゃなくて、道単価を使用したから実勢価格との差が生じたっていうふうに、先日、そういう説明がありましたけれども、そういうことですか。それは、監査が入るし、道単を使わなければ積算の根拠が失われると。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 今回、一部、道単価を採用している。それで、見積もり単価も使用しているという中で、北海道単価のうち、実勢価格と合わないものがございました。それは型枠工事という部分で、道単価が実勢単価を反映していないと、道単価以上に実勢単価が上がっているとい

うことがわかりました。ですから、それ以外の単価については、道単価が実勢単価を反映しているというふうに考えております。

○**茂木 修委員** わかりました。とりあえず終わります。

○**委員長（斉藤 明男）** 小野沢委員。

○**小野沢 猛史委員** 委員会を開かないで即決したらいいのではないかと言ったんですけれども、いろいろ疑問な点もあるので、せっかくの機会だから、質問させてもらおうと思いますけれども、最初にいろいろ、このプロポーザルコンペが終わったところから、基本設計、実施設計と、度重なる増額補正のたびに言われることですが、デザインと単価の関係。あのデザインだから、言ってみれば施工するのに相当の技術力を要して、したがって労務単価が高くなるというような、何か私、印象を受けとめられるような、そういうものなのかなと思われるような、いろいろやり取りがあると。資材についても、資材そのものの高騰による今回の増額補正なのか、いや、そもそもあのデザインだと資材が、普通の平坦な四角のものであれば1で済むものを、あの円形、カーブのデザインにしたことによって、例えば1.2かかるとか、そういう性格のものなんですか。そのことによる建設費ですね、労務単価面でも、資材の面でも、影響あるのかなと。その辺、ちょっと教えてください。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** あの形、丸い形になったから、このような増額補正額になったのかということをございますけども、ああいう丸い形だから、四角だったらそうでなかったのかといいますと、そういうことではないというふうに考えております。今回の資材の使用量とかという部分は、それは都市建に聞かないとわからないですね。

○**委員長（斉藤 明男）** 専門的なので、小野沢委員、ちょっと後で都市建のほうに聞いてください。

○**小野沢 猛史委員** 多分、都市建も答えられないんじゃないかなと思うんですけど、でも、その辺はすっかりしておいたほうがいいのかと。今後のこともありますので。一般的に言えば、四角より丸いほうが材料は少なくて済むかなと。ただ、組み立てていくのには若干の困難が伴うかもしれないなという印象なんですけど、トータルではどうなのかなということで質問してみました。

それで、6月に補正をしました。あのときは、総額で7億円でしたか、そのうちの耐震構造部分で幾ら、そして、やはりあのときも資材だとか労務単価が上昇しているということで、その分も合わせて増額補正をしたんですけど、そのときの状況をもうちょっと、もう一回教えていただけますか。

○**財務部財政課長（小林 利行）** 6月補正時の増額の要素ということでございまして、6月補正時には当初見込みより約11億円ほど増加になったということでの補正をお願いしたところございまして、その内訳といたしましては、構造方法の大臣認定取得に係る構造体の補強で3億円、各種団体からの要望による増額ということで1億円、実施設計段階の詳細検討によるもので2億円、あと単価の上昇による労務単価、資材単価、こういったもので5億円というような内訳でございます。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** ついでだから、そのことも質問しておきますけども、耐震構造の増額補正、構造ですか、それもやっぱりあのデザインだから、そういうような増額補正をしなければならないという事態になったと。今後のことがありますからね、私は質問してるんです。大きな建物、今、期待しているものが一つあるもんだから。そういうことですか。まず、そこを一つ教えてください。これも都市建じゃ

ないとわからないか。

○**教育委員会生涯学習部参事 3級（池田 敏春）** 今の構造関係のお話でございますけれども、特異な地震への対策ということで、制震構造を採用しているということに起因するものでございまして、その制震構造自体が普通の構造計算をやって出るものではなくて、外的な団体ですね、国土交通省の外部団体の承認を得て、審査をいただいて、当然、基本設計ではわからない、実施設計の段階になって詳細を詰めなければわからない、例えば模型をつくって風を当てて、風洞実験ですね、それとか、地震波、そういったものを解析してということで、審査の結果、ちょっと構造が足りないということが直接的な要因でございます。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** それもデザインによって、ああいうデザインだから、そういうことになったんですか。

○**教育委員会生涯学習部参事 3級（池田 敏春）** それはデザインというものよりも、制震構造を採用したということが一番の要因であると聞いております。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** それで、6月時点でもうおおむね5億円ぐらい、資材だとか労務単価が上がっているということで増額補正したと、今、御答弁いただきました。その6月時点で、資材、労務単価、それぞれどのくらい上がったって、わかれば教えてもらいたいですけれども、それはどういう方法、さっき、3社の業者に見積もりをしていただいて判断したということのようにお聞きしましたけれども、6月の補正時点で5億円増額補正をしたという、その金額を、実勢価格というんですか、いつ、どんなふうに調査したんでしょうか。

○**教育委員会生涯学習部参事 3級（池田 敏春）** ただいま、我々は単価アップと説明させていただきましたけれども、3月から4月の年度の変り目なんですけれども、その段階で国の公共工事の設計労務単価、こちらのほうが全国的には15%、北海道内においては17%というような、大きな引き上げがあったということがありまして、そういったものを加味したと。あるいは資材単価のほうにつきましては、細かい資料がちょっと私の手元にないんですけれども、その2つの要因ですね。労務単価が一気に上がった、さらには資材の単価も含めたということで、トータルではこういった金額に上がったということでございます。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** そうすると入札をする前に、つまり、6月に、9月議会で工事請負契約を議決という流れできていたというふうに思いますから、その入札をするに当たって、6月の段階で、6月の段階というか、そのもっと前の段階、今の御答弁で4月の当たりに何かぱっと変わったんですか、というような流れを捉えていて、それで6月で、その資材なり、労務単価なりの増額補正をしないと、とても入札は不調に終わって難しいという判断は、その時点ではされたと。それで、その部分については5億円増額補正をしたと。ということであれば、それはその時点で、皆さんはそれなりの手当をされたと。私は何もかぼう気はないんですけど、事実関係を客観に知りただけです。そういう手当をされたと。その時点では、まあいろいろ、何か技術屋がないから、適正な単価も把握できないでいるとか何とか、

いろいろ批判もありますけど、当たってる面もあるのかもしれないけどね、必ずしもそういうことばかりではないんだというふうな認識で皆さんはいらっしゃるといふふうに理解していいですか。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** ただいま参事のほうからも御答弁させていただきました。6月の補正の際に、小野沢議員がおっしゃってました、道単価にあるものについては道単価、そして単価アップも見込んで、一定程度なんですけどね、さらにその時点で、単価のないものについては業者見積もりをとって積算したものだといふふうに考えております。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** その時点では、それなりに、皆さんなりに、とり得るべき措置はとって対応してきたということなんだろうといふふうに思うんですね。それで、これ、資料の信憑性は余りないんだけど、といっても、その辺に落ちてた資料ではなくて、ちょっとネットか何かで調べたものですけど、平成25年の道単価、例えば、どういうものか具体的にイメージわからないんだけど、書いてあるとおりに読むと、普通型枠、基礎部分、平成25年の道単価は平米当たり2,300円と書いてあります。で、8月になったときの実勢価格というのは、全国的に実勢価格というのは平米当たり3,800円と書いてあるんですね。ということは、65%も上がっているということです。普通型枠、地上軸部分についていくと、道単価が平米当たり2,600円であるのに対して、8月時点での実勢価格というのが5,500円。倍以上ですよ。まあ、道単価が余りに低すぎたと。で、それを参考にしなければならぬと。それを無視した単価設定というのはできないと。ここでぶっちゃけた話をしたって構わないと思うんだけど、市長は、各代を招集された際に、いずれ会計検査院の調査とかということも想定すれば、それはいいかげんなことはできないんだと。そういうルールに乗っかってやっていかなければいけないというようなことでもあるということを考えれば、一定程度やむを得ないのかなと思います。それで、今度、9月時点で、8月に一回入札やったけど、札が入らなかったと。で、9月時点で、3日にもう一回入札をやるという、その時点で、入札の前に、万が一のことがあればということで、先ほど財務部長が御答弁されていましたがけれども、事前にですね、それはタイミング的に、どういうタイミングですか。例えば今、私、8月の実勢価格を申し上げました。すごいですよ、これ、倍ですから。上がるきって、あつという間に上がるんですね。余計な話だけど、私は釣りのおもりを買うのに、1個380円だったものが、1カ月後に400円、2カ月後には600円、3カ月後には800円、半年後には1,000円超えている。何でこんなに上がるんだろうと思うんですけど、やっぱりこれ需給のバランスなんですね。驚くべきことですよ。今はちょっと落ち着いて、900円前後でいってますけど、これでももともとから比べれば倍以上ですよ。驚きますよ、これ。おもりをなくしたら、もう釣りをやる元気なくなって帰ってきます。大変な被害ですから。まあ、これは余談ですけど。というくらい、物の値段というのはどんどん変わってる。で、9月時点で、もし万が一のことがあればというのは、まあ9月3日以前ですけれども、例えば8月の末ですか、それちょっと説明していただけますか。

○**財務部長（山田 潤一）** 入札の時期が3日でございましたので、1日、2日が土日になります。で、その2日くらい前ですから、本当の8月の末ということあたりから、そういうことの動きをさせていただいたという形になります。

○**小野沢 猛史委員** それで、入札前にもう、だめになるというふうには思いたくないけれど、しかし実

勢価格がそういうことであれば、これは厳しいかもわからないなということは、ある程度予測をして、さあ、その場合にどうするかというような対応というのは考えてましたよね。そうですね。だから、入札が不調になってという段階で、もう、すぐ、直ちに議会の各派代表者会議を開きたいというような要請があったんですね。そのときには、もうペーパーも全部できて、内容も全部決まっていたということなんです。そのときに、その不調になるのをわかっていて、なぜ入札をやったんだということが、一つは議論になるかもしれませんね。ただ、それは9月議会で工事請負契約を議決いただくということがあるわけだから、それを中止して、改めて補正予算を組んで、どこに根拠があるかもわからないような、実勢価格だから、皆さんの調査は当然いろんな、各いろいろな企業とか団体とか、いろんなところからの情報を収集してやられるんだらうから、相当精度の高いものだろうと思いますけれども、それもしかしやってみないとわからない中で、そういうようなことで、またそこで入札をやめて、難しいかもしれない入札をやめる、そして9月議会が始まった、追加で、その根拠が果たして本当はどうなのかも、やってみないとわからないんだけど、そういうことを議会に説明してということを進めていくと、もしかすると9月議会で議決して間に合わないかもしれないなというようなことは考えましたか。要するに、だから、不調でも、入札はやっちゃうと。つらいけど。でも、そのことによって実際にどれくらいどうなんだということは、ある程度わかるだろうということの、そこを一つ超えるということが、前に進めるためには必要だったというくらいの判断はされましたか。いやいや、それは、攻める気は全くないですよ。なので、入札が不調だと、多分そうじゃないかなということを想定しながらやったということだと思っただけ、そこら辺の心境というか、その今後に与える影響とか、つらいけど、ハードルを超えるためにはこれは仕方ないとか、いろいろ考えたと思うんだ。その辺、ちょっと心境を説明してもらえると。

○**財務部長（山田 潤一）** 心境と申しますか、私も調度を預かる立場でございますので、先ほど言いましたとおり、3日の入札で何とか応札があって、入札が予定価格内で成立をしてほしいという思いは当然ありましたし、2回目の、1回目に辞退して、その後、入札要件を変えて、参加要件を変えて応募した時点では、これでいけるというような確信を持っておりましたが、やはりさまざまなそういう新聞報道等、さまざまなこの不調の事案が出てきたり、そういうことを総合的に勘案して、私ももしかしたらというような部分があったものですから、そこは内々に業者のほうと話をさせていただいて、見積価格をやったと。何回も言うようでございますけれども、何とか9月3日の入札ではそういう形で応札をしていただいて、契約にこぎつけたいというような思いでおりました。で、今回の入札の結果、こういう形になりまして、公告をすると、非常にタイトな日程の中でということで、何度も御指摘をいただいておりますが、これはぎりぎり、そういう形で日程の調整ができるということで、何とか9月までに契約したいということで、このような無理な日程を設定させていただいたというような形になっております。以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** 一連の経過を考えれば、まさか9月3日の入札をやめるわけにはいかないし、その前に実勢価格でも厳しいかもしれないなとわかってても、そこで増額補正とか何とかってことをやるということもできないというような流れで来たんだらうというふうに思いますよ。そういう意味からいくと、いろいろと見通しが甘かったんじゃないかとかいう批判は、それは皆さんの立場、甘んじ

て受けなきゃならないと思うんだけど、しかし、必ずしもそうばかり言い切れない、なかなか難しい面があったなというふうに私は理解します。それだけに、この物価の上昇、単価の上昇、この勢いは激しいんだなというふうに思うんですよ。今、心配するのは、この8月の末の時点でこういう状況だったと。さっきの釣りの話じゃないけど、今度おもりを買いに行ったら、また上がってるんですよ。100円、380円が450円とか600円、800円ですよ。私、しょっちゅう釣りに行くから。行けば必ずおもりをなくするんですよ。ひっかかって、糸が切れてしまって、そのたびに、ああ痛い、1,000円だとかと思うんだけど。今度、9月24日に入札ですか、24日なんですよ、24日。私の経験からいくと、380円だったやつが600円くらいに上がってるんですよ。それだけあれば。大丈夫ですか、これ。今、これでいけますか。私、それ今一番心配している。いけますか、これで。5億2,000万円で。もうちょっと何か安全をかけてもいいかもしれないなと思って、そこを心配してるんですよ。業者は、それはいい加減なことはしないとしますよ。それなりにちゃんと積算をして、それなりにやっぱり適正に受注しようというふうにされるんだというふうに、私は、企業は悪者論者じゃないので、企業は社会的存在だと、社会の信頼なくして企業の発展ってあり得ないと思ってますから。大企業が悪だという、そういう方々もいらっしゃるけど、私は全くそう思ってませんので。だから、大丈夫かなと思って心配してるんですよ。その辺、ちょっとお知らせください。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** なかなか厳しい質問でございます。今回の補正でうまくいくのか、断言できるのかという部分ですけども、これまでの資材や人件費の高騰分を見込んだ金額で補正予算を計上させていただいております。また、これまでの設計金額と入札金額の乖離というものは、今回の補正で埋まったものというふうに考えておりますので、何とかいけるんじゃないかなというふうに考えております。

○**小野沢 猛史委員** 私もぜひそこはうまくいってほしいなというふうな思いで発言しています。でも、それこそ万が一ということがある。まさかそのときに、やっぱり心配だから、20日頃になって、20日は連休かな、そのちょっと前から、もう一回調べてみようかみたいなことでやられたって、もう間に合わないですよ、9月には、どうやったって。万が一のことは考えたくはないけど、そうなったら、これは随分しかないですよ。そこまで答弁求めません。今、やる前からそんなことを答弁されるはずもないし、聞くほうも見識ない話だと思いますけど、そういうこともあるんだなというふうに思って、私は大変心配しながら、見守りたいというふうに思います。それで、今回は本体工事ですよ。これ以外にも附帯工事ってあるんでしょ。いつも必ず附帯工事で電気工事だとかいっぱい出てきますよね。あれに影響がないんですか。あの分はちゃんともうこの中に、今回はどうなのかな、本体工事が不調で、関連する附帯工事は、まだ先の入札の予定だったんですか。それとも、本体工事がだめだったから全部取りやめにしたんですか。その辺、ちょっと解説してください。

○**財務部調度課長（神 和幸）** 設備関係、管工事が3本、電気工事が3本ございまして、同じく9月3日の開札を予定しておりました。本体工事が不調のため、今、延期というような公告を打ったところでございます。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** それで、今回の5億円の中には、そういった附帯工事の部分についても、そういう

資材の値上がりとあってありますよね。単価だって、何も東北だと倍出さなかったらやらないとあっていう企業が多いみたいですよ。すごい状況らしいんです。その辺も見込んでますか、この中に。どうですか。そこも心配してるんです。大丈夫かな。見込んでるなら、それでいいですよ。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 今回、実勢価格と乖離があるというふうにわかったものにつきましては、土工事、それから型枠工事、鉄骨工事という3つの工種のものでございまして、設計部局のほうでは、それ以外の設備関係、電気関係のほうに確認、業界のほうにどうか、業者さんのほうに確認したところが、何とか中でおさまりそうだなというようなお話もありましたので、その部分について、今回の補正額については主体工事にかかわるものだけでございます。

以上でございます。

○**小野沢 猛史委員** この物価の上昇というのは、すごい勢いだなと。これから年末にかけては少し落ち着くのではないかというふうに言われているようです。だから、私も大丈夫かなと思っておりますけど、何たって心配性なものですからね。いろいろと気にかけておりました。しっかりやってください。よろしくをお願いします。もし都市建が私の質問したことに答えられるのであれば、委員長、よろしくお願いします。

以上、とりあえず終わります。

○**委員長（斉藤 明男）** 紺谷委員。

○**紺谷 克孝委員** まず最初に配られた資料で、今いろいろ議論になっていました実勢工事費の高騰ということで、土工事、構造関係ですね。これが高騰したんだという理由、不調になった理由、したがって、それを今回の補正で上積みしたということだと思うんですね。6月と9月ということで、2回目だということが今議論の場でいろいろ出てきたと。私が思うには、企業が応札した価格がこれだけだということで、そして見積もちゃんと取ってというふうに、さっきの話だと事前に、一週間ぐらい前から、万が一のことを想定して見積もりを取ってたという話だったんですけど、やはり議会に提案するのであれば、余りにも資料不足だと。例えば2回にもわたってこういうふうになっているにも関わらず、この不調になった理由をこの一行だけで説明すると。私は、確かに土工事だとか型枠工事、鉄骨工事が当初の6月補正よりどの部分がどういうふうになっているかぐらいは、やっぱりきちんと議会に示すべきではないかというふうに思うんですね。でないと、何かこの大林組、佐藤工業がね、どういうふうに見積もったかわからないけども、先ほど言ったように、それに合わせたんじゃないかとか、そういう憶測も飛びがちなんですよ。やはり、それはきっちりそういう見積もりに従ってね、ここの部分がこういうふうになったんだ、6月の提案より、そういう資料を、少なくともやっぱりそういうのが、幾ら緊急に開いた委員会でも、やらないと、議会としてもこんなに、当初、6月で11億円ですか、今度は5億円ということで、こういう大幅な変更を、きちんと我々が目で確かめ、理解するという点では、非常に資料として不親切だし、不足しているというふうに思うんですけど、その辺はどうですか。

○**財務部長（山田 潤一）** 紺谷委員のほうから、資料のつくりが非常に不親切でないかというような御指摘をいただきました。その点につきましては、私どももわかるような形でというようなことで、少し配慮が足りなかったのかということ、お詫びを申し上げたいと思います。また一方で、例えば土工が幾ら上がったとか、それから例えば型枠工事が幾ら上がったとか、具体的なそういう数字を出すと、今

後の応札等を踏まえますと、それが情報公開をしてしまう、予定価格の部分については、当然一般競争入札ですから、公表するんですけども、その中身の内訳等も含めてオープンにしてしまうというのは、ちょっと心配もあるものですから、いずれにしても、その資料のつくり、今回、御指摘いただきました資料のつくりが不親切だということにつきましては、私のほうからおわびを申し上げますけれども、その示し方につきましては、今後、このことだけに関わらず、できるだけ議会のほうにもわかりやすいような形で出させていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○紺谷 克孝委員 入札に差し支えるからということで、私が言っているのは、型枠が幾らで、それを何ぼ掛けてとかっていうことでなくて、少なくともこの補正額のきちんとした内訳、要するに前は、6月議会では、確か私の記憶だと、絶対大丈夫ですって、かなりもう実勢価格ちゃんと調べてるし、この額は間違いなんですって、かなり強調していたことだけは私記憶してますけど、そういう点から、さらに5億円積み上げるっていうことになると、やはり信憑性が問われてくると思うんですよね。だから、そういう点では、今回は特別に、もう少し丁寧に議会に提案して、通していただきたいと思うんであれば、非常に資料として不親切だと思う。新聞記事見ても、新聞記事のほうはずっと詳しいですよ。我々にはほとんど説明されないでしょ。説明なしで、これは報道機関には丁寧に丁寧に対応しておきながら、やはり議会にはほとんど説明がないということについては、やはり非常に問題だと思うんですね。だから、そういう丁寧に、きちんとやるということをぜひお願いしたいし、できる限りそういう資料をつくっていただきたいというふうに思います。それと、先ほどの議論にもなったんですが、8月6日に最初の入札に参加者がなかったと。予定価格を変更しないでやるという、これは6月の補正の議会と同じことを言ってましたよね、これ。要するに、少し枠を広げて、ゼネコンの参入も少し認めながら、枠を広げてやっていきたいと。ちょっとその辺、記憶が正確でないですけど。しかし、6月、7月、8月ということで、さっき小野沢委員も言ったけど、9月にやったのが、9月20日でどうなんだと、心配してるという話があったですね。だから、言ってみれば、6月補正で8月にやるということになると、やはりその間、入札が近づいてくると、公告っていう問題もあるから一定の日程はとらないとだめだということはあるにしても、やはりこれだけ短期間にどんどんどんどん実勢価格が上がってきているということは、もう御承知だと思うんですよね。だから、事前にやはりきちんとした正確な情報なりを手に入れて、そしてきちんと正確に判断してやっていくということが本当に不足していたのではないかとこのように思うんですね。やはり、このまま同じような状態で続くと、やはり業者なんかからにも見られるし、いろんな意味でこの市役所の不手際が拡大されたり、世間のそういう評価になったりするという危険性が出てくると思うんですよね。まだアリーナ建設、これからずっとやっていくということで、その都度、また新たに市が単独で契約しなければだめな事項も、今後たくさん出てくると思うんですよね。だから、そういうことで、もう少し正確な情報をきちんと入れて、そして正確な判断をしていくというところに、まあ大体いいんじゃないかとかという、答弁なんかにも見られるように、その辺が非常に不足していたと思うんですけど、それを今後きちんと改めるということで、できるかどうかということがあると思うんですね。その点については、どうですか。

○教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫） これまでも、その時点時点で私どもも業者に見積もりをとっ

たり、道単価の状況とか、それ相応の、その時点で正しい情報を把握して対応してきたつもりではございましたけれども、確かに紺谷議員、御指摘の不十分さという部分は御指摘を免れないものというふうに受けとめております。今後についても、できるだけいろいろ情報は網を張りながら対応していかねければならないというふうに考えております。

以上でございます。

○紺谷 克孝委員 私は、そういうきちんとした判断ができないとか、敏速に動けないとか、いろんな問題が出てくるもとをたどれば、大きな問題として一つ私はあると思うんですよね。それは、ちょっと調べてみたんですけど、過去に私が役所に入ったときは、市民会館とか庁舎建設とか市立病院、これみんなつくったときにね、例えば市民会館でも、一つ部局を立ち上げて、準備事務局をつくってね、そこで人を張りつかせて、責任をそこに持ってもらってやるということですね。新庁舎の建設のときもそうですよ。あのときは83億円のたしか事業費でしたね。庁舎建設準備事務局ですか、ここが技術屋とか事務屋とか全部、一セクション、新しい臨時部局を立ち上げてやっていたと。市民会館、市立病院、市民会館もそうですよ。だけど、今回はそういう体制になってないんですよ。事業費を見れば、やっぱり70億円でしょ。そして、なぜそういう臨時部局を立ち上げて、責任をとらしてやっていくといたら、皆さん方も兼務みたいな形でやってるでしょ。そしたら、例えば調度課長だって、忙しいから日常の仕事をずんずんやっていながら、時たま、いろいろ教育委員会に言われるからやったとか、そういう仕事ぶりになるんですよ。そして、どこが責任を持つかって、これも責任も曖昧になると。調度がやっているからいいだろうと、教育委員会でも任せておけばいいやとか、そういうことになるんですよ。だから、私はこれだけの事業をやる上では、きちんとそういう体制を組むということが、今からでも遅くないから、そういう臨時で専門に、函館アリーナを9時から5時まで考えて、その仕事に責任を持って徹するという人がいないと、できないですよ、これ、これからも。だって、これ質問したって、都市建設部が来ないとわかんないとか、そういう話でしょ。これはどっちが答えるんだとか。だから、そういう体制では、とても責任のなすりつけ合いが出てくるし、これだけの一大事業できないんじゃないかと。そのあらわれが、これ一つ出てるんじゃないかというふうに思うんですね。だから、そういう点での理事者側の修正なり、責任体制の構築なりを、きちんと過去は全部やってきてるんですよ、そうやって。市役所はね。そういう点について、どうお考えですか。

○教育長（山本 真也） 今お話がありました、役所側の体制というか、推進体制でありますけれども、確かに市民会館の事例もそうだったというふうにお聞きしてますし、私が役所に入ってから、庁舎建設、あるいは函館病院の建設の際も、臨時部局が立ち上がった。大なり小なりですけども、そういう臨時部局を立ち上げての取り組みがあったというふうには承知しています。今回のアリーナでありますけれども、そういった部局の体制というのが必要であったかどうかというのは改めて検証してみたいというふうに思いますが、教育委員会の中にも専任となる参事ラインを設けて取り組んできましたし、あと技術的な部分というのは、やはり都市建設部に負わざるを得ないところは多くあるわけですけども、都市建設部とも十分な連携を図りながら行ってきたところでもあります。このたびの補正というのは、先ほど来お話のある、今回の資材の高騰なり人件費の高騰というのが大きな要因と考えていますので、それがゆえにこういう事態が引き起こっているとは理解はしていないんですが、今後もそういった、この

事業の推進体制については十分に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○紺谷 克孝委員 まあ、そういう体制が整ってないから、こういう事態になってるんでしょ、一面では。だって、全然言ったって、向こうが答えるとかこっちが答えるとかということもあるし。それから、やはり役所では長年の蓄積があってそういう体制をとってきたんですよ。やはり、これだけの大きな公共事業で、しかもこの数カ月の間に10億円だとか5億円だとかという変更が出てくると。これ、一つ一つ血税ですからね。それをきちんと市役所が責任を持ってやっていくためには、大きな公共事業については、そういう体制をとらなければだめだということで、過去の市役所はそういう実績をつくってきたんですよ。今回はそれをやってない。そこに重大な問題があるというふうに思うんです。だから、私は今からでも遅くないから、そういう専任の体制をとるなり何なり、規模についてはいろいろあると思うんですが、そういう体制をとって、例えばここに建設の責任者が全部出てくれば、そういう今の建設部門とか、そういう部門についても全て答えられると、共同でやっていくという体制がないと、今度は都市建を呼んでくるとか、そして皆さん日頃、平常業務をびっしりやっておられるでしょ。そういう中でのこの新たな業務なわけさ、現実的には。調度だって、そうだと思うんです。だから、そういう体制だけで、これだけの大きな公共事業というのは、なかなか瑕疵なくやりきれないというように私は思うんです。だからこそ、過去はそういう体制をとってきた。だから、庁舎建設でやったときの、こういうことはちゃんと確認していくという、当時の新聞をちょっと見ましたら、例えば理事者側が、地元の企業とのジョイント、きちんとやられているかということを確認する。資材も含め、地元関連、これもやっていくとか、分離分割や単独の発注についてもきちんとやると。それから、下請け、孫請けに対する配慮もするとかということ、庁舎建設のときはびっと、理事者のほうが庁舎建設の事務局が出してるんです。だから、やはり公共事業をやる上では、そういう体制をぜひ早急に構築していただきたいということですね。

○委員長（斉藤 明男） 答弁を求めますか。山本教育長。

○教育長（山本 真也） 先ほども御答弁申し上げましたが、一つは、そういう体制がないからこの事態が引き起こっているとは認識はしてないんです。それが一つ。あともう一つ、この場に都市建を呼べないのは、委員会の性格によるものであって、ちょっと申し訳ないなというふうには思う次第であります。業務そのものは、もちろん建設技術に関する部分は都市建設部が担いながら進めてきたわけですし、その連携が不十分なところ、若干ないわけではないんですけれども、ただ、それが引き金になってのこういう事態というふうには理解をしていないということだけは御理解をください。なお、そういった庁内の連携体制、この事業を進める上での連携体制というのは、私の立場からも十分とるように努めながら事業は進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○紺谷 克孝委員 教育長が、こういう事態があるにもかかわらず、そういうことでまだまだやれると、大丈夫だということであれば、私は小野沢委員ほど心配性ではないですけど、そういう体制でやれば、やはり今後、何か起きてくるという可能性も、私はその可能性というはあるんじゃないかということなので、ぜひ今の体制と同時に、私が言ったような形で、少し専属のチームなり何なりをつくって、

庁内でやるとかということを少し念頭に置いて、体制強化も含めて、ぜひ庁内で検討していただきたいということをお話しして、私の質問を終わります。

○委員長（齊藤 明男） 能登谷委員。

○能登谷 公委員 1点だけ。これ都市建になるのか、恐らく答えられると思うんだけど、そもそも論に戻るかもしれない。私、十何年ぶりに総務委員会に来たものだから、皆さんのいろんな部分の中で、討議してた部分というのは余りわからなくて、申し訳ないんだけど。そもそも論に戻るんだけど、6月補正で11億円、今回、5億3,000万円でいけば、約16億円だね、プラスすれば。そして、私は一番そのほかに問題視するのは、基本設計か何かのときに多目的ホールというのがあったはずなんです。多目的ホール。あるときは体育館、あるときは会議場。しかし、それはいろんな部分の中で、装置だとかいろんなのが故障がちなからやめると。やめるということで、基本設計から実施設計に移るときになくなったはずなんだよね。ということは、予算的には、はっきり言えば、あれは予算的には5億円ぐらいの予算がたしかかかるはずなんだ。でも、それは減額しないで、そのまま来てる。ということは、実質的には20億円ぐらいのプラスの、最初の設計から考えれば、20億円以上の予算がかかっていることになるわけだよ。減額補正もしないでやってるんだから。ということは、どうして20億円もプラスしなければならないのか。市民は、やっぱりどうしてもあの8の字をつくらなきゃならないのかと。それを、20億円もプラスして8の字をつくらなきゃならないのかということが、やっぱりわからないという市民がほとんどなんだわ。何でそれにこだわるんだろう。まず、そのこだわるやつ、ちょっと教えていただきたい。こだわったやつね。こだわった理由。

○教育委員会生涯学習部参事3級（池田 敏春） 今の御質問の中で、ちょっと分割しちゃうかもしれませんが、1点だけ、能登谷委員からお話しいただきました可動式、多分、多目的ホールとおっしゃる部分については、この間のやり取りからいたしますと、可動式の椅子、「（そう」と能登谷委員）ですね、の関係だとは思うんですけども、我々といたしましても、基本構想の中では確かに入っておりますけれども、実施設計の段階に及んで、使用頻度、あるいは経費の関係とかということをつまえた部分、それと、いろいろと評価はあるんですけども、たまたま調べた事例の中では、維持管理が大変だというようなこともございます。実際に壊れたというような事例もお聞きする中で、非常に強いという評価もあるという、まあ、物によっては、会社によっては違うんでしょうけども、そういったような事例もあったものですから、可動式の椅子につきましては採用しなかったという経過がございます。

その点については以上です。

○教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫） そもそもの部分ということで御質問ありましたけれども、私どもとすれば、アリーナの整備基本計画、平成23年頃から、その都度その都度、委員会にも御説明しながら、図面とかもお示しして、順次順次、基本計画を意見を伺いながら修正したりと。その都度その都度、委員会にも御説明して、御意見を伺いながら積み上げてきたものだというふうに考えております。

以上でございます。

○能登谷 公委員 そもそも論ということの中でやってれば、能登谷、何を言っただって言われるかもしれないけども、やっぱり市民の意見というのは、そういう意見がかなり多いんですよ。やっぱりそういう部分の中と、設計が、一番最初の実施設計の部分とまたかなり変わってきてると、あるいは基本

設計から比べてもかなり変わってきてるという部分の、そもそも論がやっぱりまた沸騰してるという部分もあるわけよ。そして、こういうような資材高騰云々という形の中でなってくれば、やっぱり、何て言うんだろう、その部分というのは、先ほど来の話の中で、資材高騰とかいろんな部分の中で、ちゃんとその部分の中で、設計屋さんといろいろとお話ししながら、これでできるんでしょう、できるという部分のちゃんとしたあれをもらいながら、何て言うのかな、予算価格っていうのかな、そういうのをやったはずだと思うんだけど、こうやって、さっきの多目的というか可動式のやつ部分、なぜそれを私が言ったかという、やらないと言う前に、1カ月ぐらい前に、高陽に、我々、市議会のあれで行ったのよ。そしたら、高陽で、いわゆる多目的ホールがあったんだけど、音楽ホールあって、ずばりその可動式のやつがあって、日本製でやって、そんなに金かかってなくてできて、すばらしいと、日本製のやつはすばらしいっていうやつを、行った委員がみんな聞いてきてるわけよ。それで、あれと思って、1カ月もしないでバツになったんで、あれと思ったんですよ。だから、そういう部分もあって、やっぱりその疑念というかな、そういうのもずっと持ってたという部分。それで、やはり今の部分のことを考えていけば、先ほど小野沢委員がちらっと言ってたけども、本当にこの価格の中で実際に落としてもらえるとこの部分はあるのかどうか、あなたたちが自信あるのかどうか、それを1回、聞いてみたい。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 先ほどの小野沢委員に対する答えとダブってしまうんですけども、現時点での道単価と乖離の部分設計担当部局で調査した、それから、改めて業者見積もりも取り直した、そういう中で実勢価格と入札、まあ、これから入札予定になるだろう価格との乖離、そういったものは埋まったものというふうに考えておりますので、入札は成立するのかなというふうに考えております。

○**能登谷 公委員** 終わりますけど、最後に一つだけ。やっぱりその設計の業者ともいろいろ話をして、いろんなこういう予算的な部分も出てきたと思うんですよ。で、そういう部分の中で、設計の業者というのは、どうだったんですか。これで、この値段で絶対落とせるという自信があったんですか、皆さんに対して。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 実施設計が業者から出てきました。で、私どもの積算担当部局におきまして、単価の置き換え、それから数量の精査、そういったものをして、設計書としてまとめるものでございます。それから、コンサルにどこまで確認したかというのは、ちょっと都市建さんに確認してもらわなきゃならないんですけども、基本的には実施設計が上がってきたものをベースに、積算を所管する部局で改めて見直しして設計書をつくったもので、今回の設計金額というんですか、補正額を積み上げたものでございます。

○**能登谷 公委員** 終わります。

○**道畑 克雄委員** 大分時間も過ぎてて、質問もあれしておりますけども、一、二点、伺っておきたいと思います。それで、一つは、これ工事を受けてもらうためには、ある程度のお金を積んでいかなければならない状況になってるところは、これは資材の単価の高騰だとか、いろんな労務単価の高騰だとか、これは直接的に市役所の責任ではありませんから、そうすると、やむなしという部分もあるのかなというふうにも思いますし、あと、ここまで来てますので、体育館自体は、どういうものをつくるに

しても、これは市の機能としてなければならないものですから、そこに立ち返っての議論はするつもりはないんですけども、ただ、市民の方からのお話をいろいろ聞く中では、このアリーナをつくるのに一体お金が幾らかかるんだというお話が、結構率直に寄せられておまして、ですから、一つには、どんなにかかってもこのくらいでおさめなければならないというマクロな考え方が一つ、今、おありになるかどうかということと、それから、これができるまでには、今、附帯工事も含めてということもありましたけども、いろんな設備も当然いろいろ、中の細かいものも含めてつけていかなければならないわけですよね。それで、さっき小野沢委員から物価の高騰の話もありましたけれども、今このくらいでつくれるなどと思ってたら、今度1年経ち、2年した時点、実際に物を納入してもらった段階になると、当初思ってたよりも物が高くなっていくということなんか想定されないわけでもないとする、どこかでやっぱり全体的に経費の圧縮を考えていかなきゃならないという部分もあるのかなと思うんですが、その点についても今、まあ、具体点はこれからになると思うので、今、具体的にはお話は要りませんけども、考え方として、例えばこういったところが見直しが可能かもしれないみたいなのが、もしあれば、ちょっとお聞かせをいただきたいなというふうに思います。

以上です。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** 先ほどもお答えしましたが、現時点で総事業費とすれば75億円は超える見込みだというふうに考えております。それから、その都度その都度というか、今後、発注工事の中でまた見直せる部分とかがあろうと、そういった部分についてのお尋ねでございます。委員のおっしゃるとおり、私どもとすれば当然、この金額でいいということではないですし、それから、いろんな部分で金額の圧縮というのは取り組んでいかなきゃならないというふうに考えております。ですから、例えば仕様が見直せる部分があれば、いろんな部分で見直していかなきゃならないというふうには考えております。それから、例えば初度調弁なんかでも、もう少し仕様を落とせないのかと。私どもとして、どれだけ工夫ができるのかとかというような部分で、努力してまいりたいというふうに考えております。

○**道畑 克雄委員** 終わります。

○**委員長（斉藤 明男）** 一応、一通り発言をされたと、こう思います。それで、都市建設部のほうに入室をお願いしたいんですけども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○**委員長（斉藤 明男）** はい。それでは、入れて下さい。

（都市建設部入室）

○**委員長（斉藤 明男）** 都市建設部のほうに申し上げますけれども、3人の委員から都市建設部に關する質問が出ております。阿部委員と、茂木委員と、小野沢委員のほうから出ておりますので、まず阿部委員のほうから、今回の補正額の積算について、2企業体から出された金額の低いほうにしないのはなぜかと、こういう質問が出ておりますので、まず、それから御答弁をお願いしたいと思います。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 今回の補正、5億2,700万円、補正になってますけれども、我々、先ほど多分財務部長のほうから御答弁なさったと思うんですけども、入札不調になった場合のことも懸念がありました。そういう中で、先週の終わりごろから、実際、資材単価等も上がっているという情報も、

かなり高額に上がってるということもありまして、実際に設計内容等、単価の精査を行いました。そういう中で、各工種、十なんぼあるんですけど、その工種の中で、各工種で比較検討した中で、土工事の工種、それから型枠の工種、それから鉄骨の工種がちょっと開きがあると。それで、型枠以外は見積単価なんですけれども、その部分についてはメーカーに確認いたしました。それで、6月に見積もりをとった時点の、我々が査定した額と、実際、10月以降に工事が入るんですけども、そのときの納入価格ってどの程度になりますかということの確認をとらせていただきました。そういう中で、差額が生じていることが判明いたしました。そして、この3工種以外につきましては、まあ、型枠工事につきましては道単を採用してるんですけども、道単につきましても、普通型枠で2,600円程度だと思うんですけども、実際流通してるのがかなりな、まあ、2,600円というのは、これは大体どの業者も知ってるので、あえて口にはしませんが、その程度が三千何がしというような形で乖離が出てるとい実態があります。そういう中で、精査した結果、5億2,700万円という金額が出たものであって、入札日の、片一方が46億1,790万円ですか、片一方は48億1,425万円という入札額、税込みでなってますけれども、たまたまこれが一緒になっただけであって、これがなぜ低いほうと合せなきゃならないかと、補正する必要があるのかということなんですけども、あくまでも我々は適正な設計価格を、今、現時点での設計の状態がどうかということで、5億2,700万円の補正をお願いしたのであって、それから、結局入札した段階で、企業努力によって額は変動するわけですから、入札結果というのは変動するわけですから、ですから、この片一方の、低いほうの46億円というのも、我々とすれば設計書を突き合わせてるわけではないですから。企業努力によって、この額を入れた、片一方は48億何がしを入れたという、この結果ですので、これはどちらが意図的だったとか、そういうものではなくて、あくまでも我々とすれば、その5億2,700万円増額したものが、現時点での適正な設計価格だというふうに判断しているところでございます。

○阿部 善一委員 いや、わからないな、やっぱり。わからない。2社のその企業体があって、それぞれがやる工事は同じ。で、資材はどこから入れるか、それはわかりません。また、どういう下請けを使うかもわからない。しかし、資材も人件費も値上がりしてるけれども、これだけ上積みしてもらえれば、私たちはこの工事額にこれだけ上積みしてもらえればできますよというのが、この差というのは、1億9,600万円あるんだよ、このAとBの差というのは。そういうことでしょ。片方の見積もりの取り方が悪くて、片方は設計書を見てないんだと、ただその感覚で、入札したような感覚でしか言っていないんだけど、どちらも設計書を見て積算をし、そして足りない額を出してきたわけでしょ。これ、結果として出たわけでしょ。そしたら、片方はこれでできるということなんだから、当然そこが基本にならなきゃならないんじゃないのということ。

○都市建設部長（戸内 康弘） 我々の設計というのは、実際的には道単を採用したり、見積もりを採用したりして、設計してます。これは、我々は適正な設計単価ということで設計を行っています。ですけども、そこで入札した段階で、それぞれ、まあ、今回は2者ですけど、数者の企業が参加する工事というのはたくさんあります。その中で、入札の落札額というのは、ピンからキリまであります。失格する業者まで出てくるような状況です。ですから、実態は、企業努力によって、それとかメーカーとのつき合いにもよって、価格というのは変動するんですよ。ですから、それによって入札差金が発生すると

というのが現実なんです。ですから、その適正な設計価格とその落札価格というのは、当然落札価格が低くなって、その割合が大きいほうが落札するというのがルールですので、ですから、そこに開きが出るのは当たり前なことだと私は思っています。

○**阿部 善一委員** そういうことじゃないんだって。企業努力もし、この額を入れた、少なく入れたこの佐藤工業のJV、企業体、そういう企業、もちろん企業努力もし、資材も安く仕入れるルートがあるのかどうか分かりませんが、それでもできるということだという、だからこの数字に、結局不調に終わったけれども、こういう数字を入れたんじゃないですか。だから、見積もりのとり方がおかしいとか、おかしくないとか、当然この佐藤工業だって当然のように、とるためには企業努力もし、いろんなことをやってみて、これならいけるということで、当然この額を出してきたんじゃないんですか、これ。違うの。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 随意契約であれば、低いほうの額を通すというのはわかります。けれども、我々は今回、再公告をして、入札をやり直すわけ。その適正な設計価格というのは幾らかということで今回補正をお願いしているのであって、別に随契でこれにおさめると、ですから、先ほど言ったように、内訳を突き詰めてるわけじゃないですから、我々との価格の開き、どこが小さくて、どこが大きいか、そういうのが逆転しているものもあるかもしれないんです。ですから、そういうものは我々は、まだ落札されてないわけですから、設計書つけ合わせてないですから、どこに金額の差があるかというのは我々は判断できませんので、我々ができる限り用いている単価構成を判断した上で、設計を組みなおしたらこの金額になるので、この補正をお願いしますということでお願いしている次第でございます。

○**委員長（斉藤 明男）** ちょっと待ってください。どうも議論がちょっと平行線になっているようなので、ほかの委員で何か御意見ありましたら、ちょっと考えたいと思いますけど、どうでしょうかね。今のことに関して、都市建設部長の答弁と阿部委員の質問がずっと平行線になってますので、その辺で皆さんがどのように感じているか、ちょっと御意見があったら、ちょっと。

○**小野沢 猛史委員** 私はさっき都市建設部長が答弁でもおっしゃいましたけど、随契でやるんだったら、阿部委員おっしゃるように、この低いほうの金額を設定して、補正してばんと契約しなきゃいけないんですよ。あくまでも入札をやるので、ですから、当然適正な価格というのは、たまたま低い金額を入れたのが適正かどうかということではなくて、主体的に自分で考えるというのが当然のことだと思いますよ。ですから、答弁もまったくそのとおりだなと。阿部委員がおっしゃるのは、随契ならまったく問題ないですよ。

○**浜野 幸子委員** 私は、これ思ったんですけど、言葉がさっき出されたと思いますけど、予定価格が出て、そして入札額、入れたの二者で、普通、業界でありますと、予定価格より多く出すということは、不調でも義務的に札を入れたとしかとれないですよ。そういう見方で、それでやって5億2,700万円のこの補正、5億2,700万円、これの絡みが、どう考えても、プライドある業者であれば、不調ということは絶対、不調であるのであれば、入札を不参加するのが普通だと思います。

○**委員長（斉藤 明男）** ほかに何か。

○**茂木 修委員** 私も、この件に関しては都市建設部長のお話、そうなんだろうなというふうに思います。

結果的に、まあ、次やってみないとわからないですけども、その金額で落札になるかはわからない。それはやってみなきゃわからない。

○委員長（齊藤 明男） 紺谷委員は。

○紺谷 克孝委員 私も同様に、都市建設部長の説明は当然の、そういう今の状態をきちんとそれなりに把握されておっしゃっておられるというふうに思います。

○委員長（齊藤 明男） 阿部委員、どうでしょう。皆さん、理解をされているようなんですけども。

○阿部 善一委員 いや、私は理解できないな。

当初不調に終わったけれども、この低く札を入れた企業体のほうは、当然、言ったように設計書と突合せをしながら、さまざまな角度から積算をし、そして企業努力もし、これでもいけるという確信、これだけあれば、あと3億何ぼあればいけると、予定価格に対してですよ、予定価格に対してこれだけ上積みしてもらえれば、このものはできますよということで当然札を入れたわけであったと私は思っているんですよ。違うのか。だって、それでも利益がある程度出るという、企業だから、赤字覚悟でやる何もないわけだから、当然一定程度の利益も生めるということで、いろいろと社内で検討をし、あらゆる角度の検討をし、これだけ上積みしてもらえれば本当はできるんですよという、一つのこれは意思表示だと思ってるんですよ。意思表示。で、片方は、この5億何ぼでなければできませんよと。これも会社の意思表示だと思う。だとすれば、そういういろいろ見積もりとったということだけれども、その中でどういう見積もりをとったのか、あなた方も積算しているはずだから、そうすると、十分にけるんだなということであれば、それなりの掛率を、メーカーにあるカタログ上の100%を掛けるんじゃないくて、ここはおそらく85%、あつちは87%掛けてやってるんだなとか、あるいは人件費や工費はどう見てるんだと、これでいけばできるんだなと、相対的なものの中でこういう判断をしたというふうに私は思うんだよ。そのことを言ってるんだよ。

○都市建設部長（戸内 康弘） そのこの部分が私の説明とかみ合わない部分でございまして、実際的に我々は設計書の項目ごとに人数と単価を掛けて設計しているわけです。ですから、その単価は道単なり見積もりの実勢価格を聞き取りながら設計を組んでるわけです。ですから、積算するほうは、請け負おうとする側は、その中に我々は数量を入れてます。自分たちで設定した単価を入れて、積算をします。それがたまたまこの金額になったというだけであって、単価の突きつけは、我々は業者と何も、現時点でやる何物もないです。設計段階で。それは、ですから、業者の方は、儲けがどこまであればどうなんだという部分で落札金額を決めてくるわけですから。ですから、今回こういう金額になったとして、では、逆に低くなるのか高くなるのか、これはわからないことです。ですから、現時点で我々は単価の高騰分をこれだけ見ましたという設計の見直しを行ったという結果でございまして、御理解お願いしたいと思えます。

○委員長（齊藤 明男） 今のはちょっと、皆さん、理解をされてる委員の方もいるんで、その辺でまた。

○阿部 善一委員 恐らくメーカーのところから、同じようなところから多分見積もりをとったんだ、恐らく。だから、こうなるんだろう。掛率を0.75から0.89くらいにしてやったら、たまたま数字があったという話だけど、そんなうまく、こんな、5億2,000万円、3,000万円が、それがたまたま合う話かいと。誰だって疑いたいの当たり前だと思うんだよ。だって、全部の設計を見直すんだよ。設計、骨材を、

資材を、あるいは人件費もだよ。それを、たまたまやったらたまたま合ったなんていう、そんな通るか  
いと。私は思うね。だから、皆さん理解しているけども、私はそういう意味では、なかなか理解できな  
いんだよ、やっぱり。だって、相手だって、何回も言うようだけど、低く札を入れたとこだって、やっ  
ぱりその同じもの、決められた骨材を使い、いろいろな工法も研究し、いろいろ人件費も積算した中で、  
当然企業利益もあって、見込んで、いろいろやって、その中でも利益をとった中での話だから、私は  
そう思うね。いずれにしても、そういう意味では、切羽詰まっている話で、小野沢委員みたいに応援団  
もいるからあれだけでも、しかし、なかなかそういう意味では、この場に及んでいろいろ言いたいこと  
もあるけども、だけど、極めて、それともう一つ、先ほどからちょっと重複の議論になるけれども、海  
洋センターのときに、いろいろと不手際があって、設計的に、あるいは技術も不足していると、積算の  
能力も実は落ちているんですということで都市建設部長からあって、これから技術の向上もしなければ  
ならないと、そういうことがあって、これからいろいろ気をつけて、いろんな点に配慮していきますと  
いう答弁をされているわけよ。しかしまたぞろこういうようなことが起きたわけです。これからも多分  
起きるんでしょう、恐らく、やるとすれば。だって、現実に能力がないというか、技術が下がっている  
んですというようなことを言ってるわけだから、そうすると、またぞろこういうことが起きる可能性は  
ある。こういうものを何回も同じような委員会で議論しなければならないという、こういう、私は非常  
に時間の無駄だと思っている。都市建部長、これ、さっきから話を聞いていると、どこが主体的にやっ  
てる、都市建設部が主体なのか、生涯学習部が主体でやってるのか、どこなんですか、これ。

○**教育委員会生涯学習部長（政田 郁夫）** アリーナそのものについては教育委員会所管の施設でござい  
ます。市の体制として、それぞれ所管部局というのを決めてまして、今回は紺谷委員がおっしゃるよう  
な専門の体制を組んでおりませんので、それぞれの部局で積算、施工、施工管理、あと完了までの部分、  
工事に関わる部分については都市建設部のほうに業務依頼というような形で、教育委員会のほうから都  
市建設部のほうに依頼しております。業務依頼というのは、責任も含めて依頼しているというところで  
ございます。それから、発注に関しては、これは市の通例といいますか、で、財務部が発注を担ってい  
るというような形で、この業務を進めているところでございます。

以上でございます。

○**阿部 善一委員** 大分時間も経過してますから、ほかの方もおられますので、少し時間を短縮したいと  
思いますけれども、要はこれは主体工事なわけですね。先ほども出ましたけれども、資材も上がってる、  
人件費も上がっていると。しかし、さっき言った電気だとか設備だとかというのは、このままでいけるん  
だという話なんだけども、その意味もわからない。当然、人件費というのは各技術者共通、上がって  
る分は共通なんだろうと思うんですよ。あるいは、電気だっている鉄くずが上がれば、あるいは銅  
が上がれば銅線も上がってくるはずだ。いろいろ上がってくるはずなんだ。そこは、だから問題は、ゼ  
ネコンがかかわる主体工事は積算は合わないけれども、函館市の業者が主体的にかかわる工事について  
は、これはできるんだと、今の単価で、皆さんがやった単価で、従来単価でできるんだということもわ  
からないんです。そこは、どういうふうに我々は理解すればいいですか。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 設備関係、附帯関係の工事の、どうなんだと、補正が必要なんじゃない  
かというような御趣旨かなと思います。価格が合ってるのかどうかというような御趣旨の御質問かと思

います。設備関係につきましては、我々、道単等を使いながら、見積も使いながらやっていますけれども、人件費につきましては、4月に全部国のほうから指摘があり、国からの通知に基づき、労務単価は道単には全てそれが反映されております、実際。ですから、道単を採用しているものについては、何も設備関係については問題は起きません。それから、今回主体工事で起きてるのは、あくまでも労務単価と資材を合わせた一体的な下請けに出さなければならない工種について、型枠工事は除いて、鉄骨工事、土工事というのは、その材工共の部分で見積もりをとってるんですよ。材料と労務単価を合わせたもので。そういう中でメーカー側が、この見積額の何割でしか我々は工事でできませんと。当時はこういう見積りでできると言ったんですけど、現時点ではこういう額でしかできませんということで、主体工事のほうは指摘というか、精査した中でわかったものですから、そういう主体のほうは出てきたと。設備関係については我々も、組合関係含めて労務単価の増だとか、そういういろいろな調査をした中で、いや、今の設計でも大丈夫ですよという感触は得ておりますので、その部分については問題は起きないというふうに判断しているところでございます。

○阿部 善一委員 50%理解して、50%理解しないで、私の発言を終わります。

○委員長（斉藤 明男） それでは、都市建設部長、茂木委員のほうから、8月6日の1回目の入札時、人的な要因で要するに応札する企業がなかったと、こういうような質問でございますので、その時点で業者からの、今回問題となっております単価アップの件について話があったのかどうかと、こういう御質問でございますので。

○都市建設部長（戸内 康弘） 一回目の入札におきまして、1JVが応募してたんですけども、前日になりまして辞退するという届け出がござっております。そういう中で、我々としても1者しか応募がなかったものですから、どういうふうな違いがあるんだろう、根本的な考え方の違いがどこにあるんだろうかということで聞き取りは行いました。そういう中で、開きのある部分は、お互いやっていく中で、開きはこういうのがあります、こういうのがありますということで、考え方を述べていく中で、見積もり先はどことどこどこからとりましたかだとか、そういう打ち合わせはしたんですけども、実際的に額が幾ら合わないとか、そういうところまでは最終的な詰めはしてません。幾ら合わないだとか。ただ、今の状況であれば、これはちょっと随意契約も応じることもなかなか難しい状況にあるという御回答をもらっております。

○茂木 修委員 あのと時私たちには、たしか技術者の確保ができないという理由でしたよね。たしか、そういう理由で応札できないと。技術者がいないと、確保できないという話でした。だから、いやいや、そういう説明だったんです。だから、そのときにあわせて、だから業者は積算まで至らないという説明だったんです。だけれども、この報道を見ると、8月に入札中止の際、企業側から予定価格では採算に合わないという指摘を受けたということがあったんですけど、それは本当ですか。

○都市建設部長（戸内 康弘） 先ほども述べましたけれども、実態の辞退理由は、まず積算期間が短すぎるという御指摘はありました、相手方から。ですから、相手方は概略、大きな工事について積算をなさったんだと思います。そういう中で、そこはあと細部にわたっての、建具がどうだとか、いろんな事細かな、内装がどうだという部分についてまで、どこまで積算なさったかは我々もわかりません。ただ、大きな部分で、こういう部分で開きがあるのかないのか、それは埋めれるのか埋めれないのかというこ

とで、一定の議論はさせていただきましたが、そこで価格がどれだけ違うんだというところまでは議論はしておりません。

○**茂木 修委員** だから、恐らく、こまい話はわかりませんが、総額として恐らく今、市の予定価格では落札できない旨の話がありましたよね。そのときに、この前、市長は1者の話だから、それを採用するわけにもいかないという話も聞いてました。それは、それで間違いはないですか。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** ですから、その当たったときは、あくまでも1者しか応募がなかったものですから、そういう中での予定価格での随契が可能なのか可能でないかという予備協議をさせていただいたという位置づけですので、その中で応じていただけないということですので、そのとおりでというふうに思います。

○**茂木 修委員** それで、先ほどの説明ですと、今回2回目も不調に終わるかもしれないということで、1週間くらい前に見積もりをとって調べたと。そうでなかったですか。3日、4日前。その2回目の、その。あれは8月6日か、1回目が、で、2回目公告したのって、これ何日でしたっけ。（「8日」の声あり）8月8日。で、その後、さっき言ったように、もしかしたら実勢価格との差異が結構あるというふうに、そういう情報を得たというのは、これはいつの段階なんですか。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 実勢単価の上昇というのは情報として入ってきてますし、各地の不調があった中で、そういう実勢単価が上がっているというのは我々は分かります。その中で、どこに違いがあるんだろうということで、我々は設計内容を精査させていただきました。それで、先ほど茂木委員のほうから見積もりをとったと言いましたけど、我々は見積もりをその時点ですべてとっているわけではございません。6月にとった見積額に対して、我々は企業から聞き取った中で、我々の判断で率をかけてこの金額でできると、メーカー側もできるという中で、それが6月の時点の単価設定でございます。それを、直近になりまして、9月2日になりまして、その見積もりをとった業者に対して、実際、もし実際に今これから発注するとすれば、どれくらいの率になりますかといったところは、6月に出された率と大幅に違って、これだけの率くらいを出していただかなければ我々は受注できませんと、下請けとして受注できませんという御返事があったということでございます。

○**茂木 修委員** それ、何で9月2日にそれを確認したんですか。次の日、入札だからですか。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 3日に不調に終わったときに、不測の事態が生じたときにどうするかという協議をするための材料として我々は最終確認を行ったと。上昇傾向にあるというのは理解してたので、それで型枠等はまだ実際に道単が乖離しているというのは理解してましたので、その辺も含めて最終確認という意味でメーカーに確認をしたものでございます。

○**茂木 修委員** わかりました。だけでも、さっきからおっしゃってるとおり、価格が高騰しているというのはもう情報を得て、他都市の状況も全部知っていると、不調に終わっている話。なのに、何でもっと早く、いや、私素人だから、そんなこと何で聞くんだって思うかもしれませんが、一般市民からすれば、もうちょっと早くやればスムーズに今回、この5億2,700万円というものを上乗せした形で入札できれば、こんな慌ててやらなくてもできたんじゃないかって。ただ、それは前回、不調に終わったあとに、一定程度のそういった判断というのはできなかったのかなというふうに思うんですけども。

○**都市建設部長（戸内 康弘）** 先に御答弁あったのではないかなと思いますけど、一連の動きについて、

6月議会で補正で予算をいただき、7月18日に1回目の入札公告を行いました、入札では建築主体工事においては1者1JVの応募しかなかったというところをごさいます、それが入札前日になりまして入札辞退という申し入れがありましたところから、入札を中止したということをごさいます。ですから、その時点では、見通しが悪いのではないかとわれればあれなんですけれども、他の企業の参加を促し、競争性を持たせれば、予定価格は変更せず、入札参加条件の緩和だけで応札していただけるのではないかとというような期待を持ちまして、2回目の入札公告を8月8日に行ったところをごさいます。

以上をごさいます。

- 茂木 修委員** わかりましたというか、そういうものなんでしょうね。素人考えれば、もうちょっとその段階で、もう少し精査して進めたほうがよかったのかもしれないという疑問は残りますけれども、いずれにしても、今後予定どおり、タイトなスケジュールですから、先ほどの答弁では、見積もりする期間が余りにも短いつて、今度もっと短いですからね。だから、ほかの業者が入札されるのかどうかかわらないですけれども、スムーズに行くことを期待して、終わります。
- 委員長(斉藤 明男)** 次に、小野沢委員のほうから円形デザインといいますが、それと単価の…。(「委員長、議事進行」と小野沢委員) 小野沢委員。
- 小野沢 猛史委員** 取り下げます。そのこと自体が、単価の上昇だとか、今回の一連の補正予算とのかかわりは薄いのではないかなという判断をしてみましたので、改めて別のときに質問します。取り下げます。
- 委員長(斉藤 明男)** わかりました。それでは一応…。(「委員長、さっきの設計に関わって」と能登谷委員) そうですか。能登谷議員のほうから特別、質問がありますので。
- 能登谷 公委員** 済みません、一点だけ。先ほど阿部委員からもあったけど、水産・海洋のときも1回目、応札できなくて、で、2回目で応札したと、落ちたと。そのときに、いわゆる設計屋さんの責任をかなり問われたんだよね。設計屋さん、どういう見積もりしてるんだということで、いわゆる今と同じように単価が上がってどうのこうのということで、かなり設計屋さんの責任を問われた部分があった。今回、2回もいわゆる応札ができなかったという部分があつて、設計屋さん、今かなり都市建だとか、いわゆる生涯学習部だとか、教育委員会とか攻められてるんだけど、設計屋さんには責任ないの。それだけ、ちょっと。
- 都市建設部長(戸内 康弘)** 実際問題、昨年国際水産・海洋の問題、あれにつきましては、予算額におさめるために設計事務所が単価、当時、設計事務所に単価も任せていたものですから、単価設定の額を異常に低くしたとか、工種で見逃していたものがあつたとか、そういう設計事務所がかなりの見落としがあつて、その中で我々も、先ほど阿部委員のほうからも御指摘ありました技術力の低下だとか、そういう部分での御意見、御指摘もたくさんいただきました。そういうものを反省しながら、我々は今回は、金額については、単価の扱いについては、あくまでも役所がやると。設計事務所がやるというような形をとらない形をとっております。そういう中で、実施設計におきましては、基本設計で明らかにした施設の規模や配置などに基づいて精緻な設計を行い、施設の整備や事業費などについて詳細を明らかにしたものでごさいます。このたびの震災復興関連の建設工事に伴う労務者不足や国が設定する労務単価の上昇といった外因的な要因の部分については、設計事務所に責任を問うというような、実施

設計に含まれているものではないという我々は考えをしますので、それは設計業者に責任を問えるものではないと。昨年のケースとは全く違うものというふうに考えております。

○能登谷 公委員 すごく腹が立ったけど、いいわ。

○委員長（齊藤 明男） 一応、都市建設部に対する質疑は終了いたしましたので、都市建設部の皆さんには、大変どうも所管外で申しわけございませんでした。御退室願います。

（都市建設部退室）

○委員長（齊藤 明男） ほかに御質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（齊藤 明男） それでは質疑を終結いたします。

ここで理事者は御退席ください。

（財務部・教育委員会退室）

○委員長（齊藤 明男） それでは、これより本件に対する協議を行います。先ほどの質疑等を踏まえ、議案第15号平成25年度函館市一般会計補正予算に対して、各委員から何か御発言はございますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（齊藤 明男） ないようですので、これより議案第15号平成25年度函館市一般会計補正予算について、順次、各会派の賛否をお伺いいたしますが、発言の際には賛否理由につきましても、あわせて御発言をいただきますようお願いいたします。

それでは、市政クラブさん。

○浜野 幸子委員 いろいろお聞きして、納得しない部分もありますが、もうそういう建設に対しては反対できないので、マル。

○委員長（齊藤 明男） はい。

次に、民主・市民ネットさん。

○阿部 善一委員 いろいろと議論をした中では、一連のずっとこの中で、それは浜野委員も述べられたように、いろいろあるけれども、諸般の事情を考慮すれば、まあやむを得ないかなというようなことになるかと思えます。

○委員長（齊藤 明男） 公明党さん。

○茂木 修委員 うちも、これまでの都市建設部の進め方というのが果たしてどうなのかなという疑問もありますけれども、この予算そのものは当然必要だというふうに思っておりますので、マルです。

○委員長（齊藤 明男） 市民クラブさん。

○小野沢 猛史委員 私どもは今回、一連のこの補正予算、繰り返しということは、単価の上昇という外的なやむを得ない要因だということで、賛成します。

○委員長（齊藤 明男） 日本共産党さん。

○紺谷 克孝委員 きょうの委員会でたくさんの指摘があって、理事者も十分答えきれない問題もあったやに思います。それで、そういう問題は、今後これからアリーナの建設が進む中で、もっと厳しく理事者に対応していただくようにしなければならないというふうに思っています。しかし、建設自体がこう進んで来て、事態がもうここまで来てるということで、とりあえずそういう問題点はあるにしても、予

算は執行せざるを得ないんじゃないかということで、マルです。

○委員長（齊藤 明男） はい。

一通りお聞きしましたので、各会派の採決態度の確認をいたします。

5会派、全てマルと、こういうことで決定させていただきます。

各委員からほかに何か御発言ありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（齊藤 明男） ないようですので、発言を終結し、これで協議を終わります。

ここで、採決の準備をいたしますので、少々お待ちください。

（財務部・教育委員会入室）

○委員長（齊藤 明男） これより議案第15号平成25年度函館市一般会計補正予算を採決いたします。

本案は原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（齊藤 明男） 異議がありませんので、本案は原案のとおり可決いたしました。

ここで理事者は御退席ください。

（財務部・教育委員会退室）

○委員長（齊藤 明男） お諮りいたします。

委員長の報告文につきましては、委員長に一任願いたいと思います。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（齊藤 明男） 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

以上で付託事件審査を終了いたします。

---

## 2 その他

○委員長（齊藤 明男）

- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（発言なし）
- ・ 散会宣告

午後7時57分散会